

グループ番号		名前					
--------	--	----	--	--	--	--	--

ICF思考による情報整理・分析シート

利用者氏名	神谷 花子
-------	-------

利用者・家族の望む暮らし

利用者・ 家族の意向	(利用者)	(家族)
---------------	-------	------

【健康状態】

病名・症状、服薬内容、既往歴、主治医、受診行動（頻度、方法）、その他

病名：①脊柱管狭窄症、座骨神経痛、変形性膝関節症 ②陳旧性脳梗塞、③糖尿病、高血圧症

通院：長谷川内科クリニック：月1回通院、整形外科：月1回通院

服薬：降圧剤、鎮痛剤

BMI：17.48（低栄養、やせすぎ）

生活機能

利用者の 現在の状況	【心身機能・身体構造】	【活動】	【参加】
	睡眠の内容（不眠、中途覚醒、服薬の有無）、 栄養（増加、減少、嗜好、水分摂取状況）、 視覚・聴覚・痛みと日常生活の支障の程度、 口腔機能と衛生、排尿・排便障害、 筋力、全身持久力、 精神面（抑うつ、認知機能）、その他 ・左上下肢麻痺・両下肢筋力低下。 ・左肩・左肘の関節拘縮。 ・老眼鏡をかけると見える。 ・大声で話しかけないと聞こえない。 ・認知能力は問題なし。	コミュニケーション、 立ち座り・浴槽のまたぎなどの起居動作、 移動（屋内・屋外歩行）、運搬動作、 洗髪・洗身、爪切り・耳掃除、 下着・衣類の着脱、買い物、金銭管理、 簡単な調理、掃除、整理整頓、洗濯、 服薬管理、その他 ・杖歩行。支えがなければ歩けない。 ・病院内では基本動作は自立している が、歩行や移動は不安定。車いすは自走 できる。 ・更衣・入浴・排せつに一部介助が必 要。 ・調理・掃除・金銭管理などのIADLは、 入院前から妻が行っている。 ・義歯が合わなくなり、うまく噛めな い。	外出先の有無、趣味活動、 友人・親戚の交流、 地域の居場所、 日中の活動の有無、その他 ・近所とは挨拶をする程度の付き合い。 ・墓会所には知人が多かった。

健康状態は生活機能にどのような影響を与えているか？

健康状態は生活機能にどのような影響を与えているか？	
---------------------------	--

背景因子

(環境因子、個人因子) は生活機能にどのような影響を与えているか

介護支援専門員等による 情報整理・分析	【環境因子】	【個人因子】
	家族構成及び家族の健康状態、家族・親戚とのつながり、 経済状況、住環境（立地状況）、 交通機関へのアクセス、よく利用していた社会資源、 福祉用具・自助具、医療・保健・福祉サービス、 友人の家までの距離、その他 【家族】 ・主介護者である妻は腰痛・膝関節症があり、夫の身の回りの介護に限界がある。 ・妻は、介護に関する知識がほとんどなく、本人の残存能力を活かした介護ができない。 【住居】 ・自宅周辺は坂が多く、車いすで一人で外出できな い。 ・自宅では布団で寝起きしているため、起き上がりや 立ち上がりが困難。 ・トイレや浴室に手すりがないので、入浴や排せつに 介助が必要。	年齢、成育歴、趣味・嗜好、性格、価値観、職歴、そ の他 年齢：77歳 職歴：大手企業のサラリーマンとして定年まで勤務。 退職後は事務関係の仕事に65歳まで従事。 趣味：囲碁 性格：真面目、温厚な性格 現在の様子：リハビリに意欲的に取り組んでいる。自 宅に帰って妻に迷惑をかけないか心配している。囲碁 が好きだが、今の状態でできるか不安に思っている。

【配布資料】ICF思考による情報整理・分析シート（原本）

現状が続くことで 予測されるリスク は何か？（防ぐべきこと）			
[環境]			
状況を改善するための 促進因子 は何か？（活動や参加にプラスに働く要素・内容）			
[環境]			
↓			
生活の目標			
解決すべき 課題の明確化と目標の 設定	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	(長期目標)	(短期目標)

